軌跡
加治木高校生徒会新聞

第３号
2022.09.30.(金)

制作
下村将太郎

発行
第75代生徒会

一、第七十五回龍門祭
二、連載企画紹介
三、言の葉
四、好きになっちゃう放課後
五、二百字の本棚
六、ＬＯＧＩＣＡＬ
七、編集後記

第75回龍門祭

Attract light
龍門祭
英雄-今だけの青春-
Bibbdi-Bobbidi-Boo～夢と希望の魔法をかけよう～

今月三日・七日・九日・十日の四日間、加治木高校第七十五回龍門祭が開催されました。

体育祭は、当日の生憎の豪雨のために三日の午前と翌週七日の午後に分散しての開催となりました。時間の都合上中止となってしまった種目もありましたが、競技の部・応援の部の両方で黄団が優勝を手にしました。無事天候に恵まれた七日の閉会式では、黄団応援団長の小水流颯太さんに優勝旗と優勝盾が手渡されました。

文化祭は、二年ぶりの二日間日程、ステージ・展示・映像の三部門で開催されました。一・二年生各学級と各文化系部活動によって生み出された工夫を凝らした作品の数々は、会場を興奮と青春の熱に巻き込みました。

今年度もコロナ禍での開催となったものの、大きな盛り上がりとともに幕を下ろした第七十五回龍門祭。皆さんの心の中にも、忘れられない思い出の数々が刻み込まれていることと思います。Attract Light—「光を惹きつける」。会場を満たしたのは、青春の光でしょうか。

連載企画紹介

今回から、『言の葉』に加えてさらに三つの新連載がスタートします。そして、これで新連載企画が出そろいました。これから一年間弱の連載をお楽しみに！

—・—・—・—・—・—・—・—

『好きになっちゃう放課後』—

毎号一人の先生に執筆していただいた、いろいろなトピックについての「好き」を語る記事を掲載します。読めば新しい興味に出会えるかも？□が好きになっちゃう、楽しい放課後の始まりです！

『二百字の本棚』————

一冊の本を、二百文字程度の短い文章で紹介するコーナー。このコーナーでは、生徒の皆さんから記事を募集します。「推し本」を語ってみたい皆さん、ぜひお近くの生徒会役員まで！匿名掲載も可能です。

『ＬＯＧＩＣＡＬ』————

普通の知識問題とはちょっと違う、頭を柔らかくして考える論理クイズを出題します。あなたは、ひらめけますか？

言の葉

学問をするのに必要なのは、気概であって学歴ではない。熱意であって体裁ではない。…笑う者あらば笑うがいい。貴君は常に前進してきたのだ。

——————栗原一止(小説『神様のカルテ３』より)

Englishが好きになっちゃう放課後

　新連載『好きになっちゃう放課後』。毎号一人の先生が、教科の「好き」を語ります。記念すべき初回の記事を書いていただいたのは、英語科の阿多慶輔先生。

　それでは二行後、読めば英語が好きになっちゃう放課後のはじまりです！

英語を伸ばすきっかけ

——八十年代に多くの日本企業が海外に進出し、「これからは国際化社会が来るから英語が大切だ」と言われていたので、英語を伸ばして就職しようと考えました。「商社マンになって世界を回って営業できたらいいな」くらいの希望はあったと思います。

同志社大学時代

——使える英語力を身につけるため、ESS の debate セクションに入って大会に出場しました。論文や新聞から大切な部分を英訳した資料を基に相手と議論する、タフな試合です。おかげで結構英語力がついたと思います。日米会話学院主催の大会で優勝してアメリカに派遣され、下院議員や大使と面会できました。

銀行員時代

——三井銀行(現三井住友銀行)に就職しました。採用の決め手は、学生時代に英語を学んできたことだったと思います。日経新聞片手に、FEN(米国軍人向け放送)の録音テープを Walkman で聴きながら満員電車で通勤する毎日でした。『半沢直樹』の作者の池井戸潤氏とほぼ同時代に銀行員をしていたことになります。

高校教員時代

——これまで四校に勤め、修学旅行の引率や個人的な旅行で、中国やシンガポール、オーストラリアなど世界各地を訪れました。二〇〇一年には英国 Birmingham 大学教育学部に留学、修士を取得できました。多様な国・地域からの留学生と教育の現状を話し合い、多くを学ばせてもらいました。旅行と違って長期間現地に滞在したことで文化や生活の違いが分かり、日本の良さと足りないところを感じられるようになりました。

英語の魅力

——国籍・文化の違う人とコミュニケーションを取れるのが、英語の魅力です。誰とでも自由に話せる、伝えられるということは、何にも代えられない楽しみです。

英語が苦手な皆さんへ

——まず大切なのは音読練習。一日十分で良いので、教科書本文の音声を聞いて、音読シートを使って音読しよう。そして、日常で英語に接する機会を増やしましょう。インターネットやテレビで自分の好きなスポーツ、音楽、映画などを英語で視聴してみよう。テストの成績が気になるでしょうが、英語を好きになって気長に付き合う気持ちは、もっと大切です。

Keisuke Ata

二百字の本棚　1さつめ

■『早朝始発の殺風景』青崎有吾■

　「青春は、気まずさでできた密室だ」—始発電車で遭遇したのは、普段あまり話さない女子。二人は互いに、互いの早起きの理由を探り始め……。表題作『早朝始発の殺風景』ほか、五つの青春密室劇を収録する短編集。不器用な高校生たちの関係が、小さな謎と会話を通じて少しずつ変わってゆく。緻密な観察・発見・論理に彩られながらもそれが単にミステリに終わることはなく、優しく暖かで、何ともいえない余韻が残る。心地よい後味に包まれる作品。

LOGICAL Ⅰ

　頭を柔らかくして考えないと解けない思考問題を出題するコーナーです。答えは次号、次の問題と一緒に掲載します。第一問は力試しで易しめに……それでは、問題。

問題　ある日のこと。一昨日十五歳だった彼女は、来年十八歳になって成人を迎えるという。これが本当なら、彼女の誕生日はいつ？

編集後記

　中間考査、最終日です。皆さんがこれをいつ読んでいるのかは私には分かりませんが、あと三教科、頑張りましょう—あるいは、三日間お疲れ様でした。龍門祭、超大型の台風十四号、そして三年生の皆さんは平日授業後の模試を経て、中間考査。今日を終えれば、また新しい月が始まります。

　簡単に振り返ってみると、この一か月は多くの皆さんにとって慌しい月だったのではないかと思います。生徒会も同様、今月は任期始まって以来の忙しい日々でした。ただ一方では、素敵な思い出が、たくさん生まれた一か月でもあったのではないでしょうか。

　ところで皆さんは、『万葉集』の中で「三五月」という三文字にあてられた、変わった読みを知っていますか？九月十日は十五夜でしたね—答えは「もちづき(望月＝満月)」。歌聖とも称された飛鳥時代の歌人、柿本人麻呂が用いた表現だそうです。多くの学生を悩ませている古文の作者たちがこんな言葉遊びをしていたと思えば、少しは古文も面白くなってきませんか。「苦手」を「好き」に変えるヒントは、思いの外近くに落ちていそうです。とすれば大切なのは、見つけた種をわざわざしゃがんで拾い上げるひと手間、なのかもしれませんね。

　生徒会新聞『軌跡』第三号でした。朝の空気が秋めいて新しい季節の足音が聞こえてくる中、新聞では三つの新連載が始まりました。これからの新聞もお楽しみに。では、今回も最後まで読んで下さった皆さん、ありがとうございました。

（下村　将太郎）